



サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会を標的としたテロの可能性 について(第1部)

第18回サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会(正式名称「2006 FIFA ワールドカップ・ドイツ大会: 2006 FIFA World Cup Germany」)は、2006年6月9日から7月9日までの約1ヶ月間にわたり、ドイツで開催される予定である。大会は現地時間2006年6月9日午後6時(日本時間6月10日午前1時)にミュンヘンでのドイツ・コスタリカ戦で開幕し、現地時間2006年7月9日午後8時(日本時間7月10日午前3時)にベルリンで決勝戦が行われ、閉幕する予定である。出場国は32ヶ国で、予選リーグ(グループリーグ: Stage1)48試合と決勝トーナメント(Stage2)16試合の計64試合が、ベルリン・ミュンヘン等のドイツ全土12の会場で行われる予定である。FIFA(国際サッカー連盟: Fédération Internationale de Football Association)ワールドカップ・サッカー大会は、世界最大のスポーツイベントと言われており、今次大会の予選には、世界197の国と地域が参加し、約1ヵ月にわたる大会中、全世界で延べ約300億人の人がテレビで視聴すると予想されている。今次大会は4年に1度の世界最大のスポーツイベントであり、今年最大の国際的イベントであることから、テロの発生が懸念されている。下記は、今次大会の概要、ドイツにおけるテロ動向等についてまとめたものである。なお、本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として2006年4月18日作成「サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会を標的としたテロの可能性について」から抜粋したものである。(「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005年の実績で58編のレポートを提供した)

1. サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会の概要

第18回サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会(正式名称「2006 FIFA ワールドカップ・ドイツ大会: 2006 FIFA World Cup Germany」)は、2006年6月9日から7月9日までの約1ヶ月間にわたり、ドイツで開催される予定である。今次大会の概要は以下の通りである。

①大会名称

2006 FIFA (国際サッカー連盟: Fédération Internationale de Football Association) ワールドカップ・ドイツ大会 (2006 FIFA World Cup Germany)

②日程(概略)

今次大会の日程(概略)は、以下(図表1)の通りである。

【図表1: 大会日程(概略)】

年月日	日程
2005年12月9日	組み合わせ抽選会（ライブチヒ）
2006年6月9日～6月23日	Stage1（予選リーグ）
2006年6月24日～6月27日	Stage2（決勝トーナメント：1回戦）
2006年6月30日～7月1日	Stage2（決勝トーナメント：準々決勝）
2006年7月4日～7月5日	Stage2（決勝トーナメント：準決勝）
2006年7月8日	Stage2（決勝トーナメント：3位決定戦：ミュンヘン）
2006年7月9日	Stage2（決勝トーナメント：決勝戦：ベルリン）

③ 出場国

今次大会の予選には、世界 197 の国と地域が参加し、下記 32 ヶ国が出場する。

【図表 2：出場国一覧】

グループ A	グループ B	グループ C	グループ D
ドイツ	イングランド	アルゼンチン	メキシコ
コスタリカ	パラグアイ	コートジボワール	イラン
ポーランド	トリニダード・トパゴ	セルビア・モンテネグロ	アンゴラ
エクアドル	スウェーデン	オランダ	ポルトガル
グループ E	グループ F	グループ G	グループ H
イタリア	ブラジル	フランス	スペイン
ガーナ	クロアチア	スイス	ウクライナ
米国	オーストラリア	韓国	チュニジア
チェコ	日本	トーゴ	サウジアラビア

④ 試合会場

出場国は 32 ヶ国で、予選リーグ（グループリーグ：Stage1）48 試合と決勝トーナメント（Stage2）16 試合の計 64 試合が、ベルリン・ミュンヘン等のドイツ全土 12 の会場で行われる予定である。下記（図表 3）は、試合会場の一覧である。

【図表 3：試合会場一覧】

開催都市名	球場名 (従来の名称)	球場名 (今次大会での名称)	収容人員 (人)	総試合数
ベルリン (Berlin)	Olympiastadion	Olympiastadion	77,176	6

ミュンヘン (Munich : München)	Allianz Arena	FIFA World Cup Stadium, Munich	66,000	6
ハンブルグ (Freie und Hansestadt Hamburg)	AOL Arena	FIFA World Cup Stadium, Hamburg	51,055	5
ハノーヴァー (Hanover : Hannover)	AWD-Arena	FIFA World Cup Stadium, Hanover	44,652	5
ゲルゼンキルヘン (Gelsenkirchen)	Veltins-Arena	FIFA World Cup Stadium, Gelsenkirchen	53,804	5
ドルトムント (Dortmund)	Signal Iduna Park	FIFA World Cup Stadium, Dortmund	64,000	6
ライプチヒ (Leipzig)	Zentralstadion	Zentralstadion	44,199	5
コロニーユ (ケルン) (Cologne : Köln)	RheinEnergieStadion	FIFA World Cup Stadium, Cologne	46,120	5
フランクフルト (Frankfurt am Main)	Commerzbank-Arena	FIFA World Cup Stadium, Frankfurt	50,132	5
カイザースラウテルン (Kaiserslautern)	Fritz-Walter-Stadion	Fritz-Walter-Stadion	41,170	5
ニュルンベルグ (Nuremberg : Nürnberg)	Franken-Stadion	Franken-Stadion	41,926	5
シュツットガルト (Stuttgart)	Gottlieb-Daimler-Stadion	Gottlieb-Daimler-Stadion	54,267	6

⑤ 試合日程

試合会場別の試合日程は以下の通りである。

【図表 4 : 会場別試合日程】

月日・時間 (2006年 : 現地時間)		グループ	対戦カード		会場
6月12日	午後3時	F	オーストラリア	日本	カイザースラウテルン
6月17日	午後9時	E	イタリア	米国	
6月20日	午後9時	B	パラグアイ	トリニダード・トバゴ	
6月23日	午後4時	H	サウジアラビア	スペイン	
6月26日	午後5時	1回戦	E組1位	F組2位 (5)	
6月9日	午後9時	A	ポーランド	エクアドル	ゲルゼンキルヘン
6月12日	午後6時	E	米国	チェコ	
6月16日	午後3時	C	アルゼンチン	セルビア・モンテネグロ	

月日・時間 (2006年：現地時間)		グループ	対戦カード		会場
6月21日	午後4時	D	ポルトガル	メキシコ	
7月1日	午後5時	準々決勝	(3)の勝者	(4)の勝者 (11)	
6月11日	午後9時	D	アンゴラ	ポルトガル	
6月17日	午後6時	E	チェコ	ガーナ	ケルン
6月20日	午後9時	B	スウェーデン	イングランド	
6月23日	午後9時	G	トーゴ	フランス	
6月26日	午後9時	1回戦	G組1位	H組2位 (6)	
6月13日	午後6時	G	フランス	スイス	
6月16日	午後6時	C	オランダ	コートジボワール	シュツット ガルト
6月19日	午後9時	H	スペイン	チュニジア	
6月22日	午後9時	F	クロアチア	オーストラリア	
6月25日	午後5時	1回戦	B組1位	A組2位 (3)	
7月8日	午後9時	3位決定戦			
6月10日	午後6時	B	トリニダード・トバゴ	スウェーデン	ドルトムン ト
6月14日	午後9時	A	ドイツ	ポーランド	
6月19日	午後3時	G	トーゴ	スイス	
6月22日	午後9時	F	日本	ブラジル	
6月27日	午後5時	1回戦	F組1位	E組2位 (7)	
7月4日	午後9時	準決勝	(9)の勝者	(10)の勝者	
6月11日	午後6時	D	メキシコ	イラン	ニュルンベ ルク
6月15日	午後6時	B	イングランド	トリニダード・トバゴ	
6月18日	午後3時	F	日本	クロアチア	
6月22日	午後4時	E	ガーナ	米国	
6月25日	午後9時	1回戦	D組1位	C組2位 (4)	
6月12日	午後9時	E	イタリア	ガーナ	ハノーヴァ ー
6月16日	午後9時	D	メキシコ	アンゴラ	
6月20日	午後4時	A	コスタリカ	ポーランド	
6月23日	午後9時	G	スイス	韓国	
6月27日	午後9時	1回戦	H組1位	G組2位 (8)	
6月10日	午後9時	C	アルゼンチン	コートジボワール	ハンブルク
6月15日	午後3時	A	エクアドル	コスタリカ	
6月19日	午後6時	H	サウジアラビア	ウクライナ	
6月22日	午後4時	E	チェコ	イタリア	
6月30日	午後9時	準々決勝	(5)の勝者	(6)の勝者 (10)	
6月10日	午後3時	B	イングランド	パラグアイ	フランクフ ルト
6月13日	午後3時	G	韓国	トーゴ	
6月17日	午後3時	D	ポルトガル	イラン	
6月21日	午後9時	C	オランダ	アルゼンチン	
7月1日	午後9時	準々決勝	(7)の勝者	(8)の勝者 (12)	

月日・時間 (2006年：現地時間)		グループ	対戦カード		会場
6月13日	午後9時	F	ブラジル	クロアチア	ベルリン
6月15日	午後9時	B	スウェーデン	パラグアイ	
6月20日	午後4時	A	エクアドル	ドイツ	
6月23日	午後4時	H	ウクライナ	チュニジア	
6月30日	午後5時	準々決勝	(1)の勝者	(2)の勝者 (9)	
7月9日	午後8時	決勝戦			
6月9日	午後6時	A	ドイツ	コスタリカ	ミュンヘン
6月14日	午後6時	H	チュニジア	サウジアラビア	
6月18日	午後6時	F	ブラジル	オーストラリア	
6月21日	午後9時	C	コートジボワール	セルビア・モンテネグロ	
6月24日	午後5時	1回戦	A組1位	B組2位 (1)	
7月5日	午後9時	準決勝	(11)の勝者	(12)の勝者	
6月11日	午後3時	C	セルビア・モンテネグロ	オランダ	ライプチヒ
6月14日	午後3時	H	スペイン	ウクライナ	
6月18日	午後9時	G	フランス	韓国	
6月21日	午後4時	D	イラン	アンゴラ	
6月24日	午後9時	1回戦	C組1位	D組2位 (2)	

⑥後援企業

今次大会には **Official Partners** (15社) と **Official Suppliers** (6社) の計 21社が後援企業として参画している。後援企業の概要は、図表5の通りである。なお、日本からは **Official Partners** として、富士写真フイルム及び東芝が参画している。**Official Partners** の国別には、米国が最も多く7社を占めている。一方、**Official Suppliers** は現地での実際の供給が主要業務であることから、全てドイツ企業となっている。

【図表5：後援企業一覧】

後援形態	後援企業	国	業態
Official Partners	adidas (アディダス)	ドイツ	スポーツ用品メーカー
	Anheuser-Busch (アンハイザー・ブッシュ)	米国	バドワイザー製造元のビール会社
	Avaya (アバイア)	米国	IP電話
	Coca-Cola (コカ・コーラ)	米国	飲料メーカー
	Continental AG (コンチネンタル AG)	ドイツ	自動車タイヤメーカー
	Deutsche Telekom (ドイツテレコム)	ドイツ	通信業
	Emirates (エミレーツ航空)	UAE	航空会社
	富士写真フイルム	日本	写真メーカー

後援形態	後援企業	国	業態
	Gillette (ジレット)	米国	剃刀メーカー
	現代自動車	韓国	自動車メーカー
	MasterCard (マスターカード)	米国	クレジットカード会社
	McDonald's (マクドナルド)	米国	ファーストフード飲食店
	Philips (フィリップス)	オランダ	電機メーカー
	東芝	日本	電機メーカー
	Yahoo! (ヤフー米国)	米国	インターネット検索エンジン
Official Suppliers	Energie Baden-Württemberg AG (EnBW : バーデン・ヴュルテンベルグ州公共電力会社)	ドイツ	電力会社
	OBI (オビ)	ドイツ	建材・ホームセンター経営
	Hamburg-Mannheimer Versicherung (ハンブルグ・マンハイマー)	ドイツ	保険会社
	Postbank (ポストバンク)	ドイツ	銀行
	ODDSET (オッドセット)	ドイツ	スポーツ振興くじ取扱会社
	Deutsche Bahn AG (ドイツ鉄道)	ドイツ	鉄道会社

⑦その他

当初、今次大会の開幕戦の2日前(2006年6月7日)にベルリン(Olympiastadion)で予定されていた開会式は、同スタジアムの最初の試合までに芝の修復が困難との理由で中止された。

2. ドイツにおけるテロ動向

ドイツ国内で過去に発生した主なテロ事件及びドイツ権益を標的とした過去の主なテロ事件は別添1の通りである。また、同国内におけるテロ動向は以下の通りである。(なお、テロ組織の概要については第2部の図表7参照)

極左系テロ組織によるテロ

- 1960年代を通じ、西側諸国の学生の間でベトナム戦争に対する反戦運動が広がった。反戦のデモ行進・集会から、一部の学生を中心として、単なる反戦運動だけでなく、更に先鋭化した反帝国主義、反資本主義、反米をスローガンに掲げた政治性の高いグループが形成されていった。このような状況は、西ドイツにおいても同様であったが、1967年6月2日に、当時のイランの国王ムハンマド・レザー・パフレヴィー (Mohammad Rezā Pahlavī) が西ベルリンを訪問した際の抗議活動が、その後の西ドイツにおける過激な左翼運動に大きな影響を与えることとなった。
- 1967年6月2日のムハンマド・レザー・パフレヴィー・イラン国王(当時)の西ベルリン訪問

に対する抗議活動は、ドイツ人学生に支援された亡命イラン人による猛烈な抗議の結果、暴動へと発展した。特に翌日の6月3日、国王がドイッチェ・オペラ (Deutsche Oper Berlin) を訪問した際には、国王観劇の後、抗議デモ参加者に西ドイツ警察が発砲し、ドイツ人学生が射殺されたことをきっかけに、学生側を更に過激な方向に向かわせることとなった。その結果組織されたのが、無政府主義系の左翼過激派テロ組織「6月2日運動 (2JM : Second of June Movement)」である。更に、2JMの後継組織として、脱獄したアンドレアス・バーダー (Andreas Baader*1) とそれを幫助したウルリケ・マインホフ (Ulrike Meinhof*2) が中心となり、1968年に創設されたのが「ドイツ赤軍 (RAF : Rote Armee Fraktion : Red Army Faction)」であった。このグループは当初、バーダー・マインホフ・グループ (Baader Meinhof Grope) と呼ばれていた。その後、日本赤軍 (Japan Red Army) に触発され、1970年6月から、自らをドイツ語でドイツ赤軍を意味する Rote Armee Fraktion (RAF) と名乗るようになった。

注 : *1 RAFの創設者の一人。1943年5月6日生まれで、1977年10月18日に死亡。1968年4月2日、フランクフルトのデパートの放火でガールフレンド (Gudrun Ensslin) と共に逮捕され、有罪となり服役したが、後にRAFの主要メンバーとなるウルリケ・マインホフの協力で脱獄した。その後、ヨルダンにあるPLO訓練基地で訓練を受けた。ドイツに帰国後の1970年から72年にかけて、数多くの銀行強盗・爆弾テロを首謀した。1972年6月1日にフランクフルトでの銃撃戦の後、逮捕され、1977年4月28日に終身刑の判決を受けた。RAFはバーダーの奪還のため、1977年9月5日、西ドイツ経営者協会の会長 (Hanns Martin Schleyer) を誘拐し、バーダー等のRAFメンバーの解放を求めた。また、1977年10月13日には、ルフトハンザ航空機が南フランス上空でRAFを名乗る4人にハイジャックされ、バーダー等のRAFメンバーの解放を求めた。10月17日に同機がソマリアのモガディシオに着陸したところで西独の対ゲリラ特別部隊28人が機内に突入し、犯人全員を射殺、乗員・乗客86人を救出した。その翌日の10月18日、バーダーは刑務所内の独房で、射殺体で発見された。西ドイツ政府は、これを集団自殺と断定したが、現在でも謎とされている。なお、RAFは10月19日、9月5日に誘拐した西ドイツ経営者協会会長を処刑したと発表した。

*2 RAFの創設者の一人。1934年10月7日生まれで、1976年5月9日に死亡。左翼系の新聞 (konkret) の編集者であったが、1968年以降、左翼急進派と接触するようになった。アンドレアス・バーダーの脱獄を手助けし、その後RAF創設に参加した。1970年から72年にかけて、バーダーと共に数多くの銀行強盗・爆弾テロを首謀した。1972年に逮捕され、服役していたが、1976年5月9日、刑務所内の独房で首をつって自殺しているのが発見された。

- RAFの政治主張は反帝国主義で、テロも辞さない広範な反体制活動を通じ、西側資本主義を打倒し、マルクス主義による世界革命を目指していた。1968年の創設直後の1969年頃から、パレスチナ解放人民戦線 (Popular Front for the Liberation of Palestinian : PFLP) やパレスチナ解放機構 (Palestine Liberation Organization : PLO) の軍事組織である「ファタハ (Fatah)」と連携し、武力闘争能力を向上させた。また、数名のメンバーが PFLP・ファタハ・旧ソ連国家保安委員会 (KGB)・旧東ドイツ国家保安省 (シュタージ : Stasi) 等の協力により、ヨルダン等でパレスチナ過激派から戦闘訓練を受けた。なお、RAFとパレスチナ過激派とを結びつけたのはベネズエラ生まれのテロリストであるカルロス (イリッチ・ラミレス・サンチェス*3) であるとも言われている。

注 : *3 本名 Ilich Ramírez Sánchez。現在フランスの刑務所に終身刑で服役中。別名カルロス (Carlos)、ジャッカル (Jackal)、カルロス・ジャッカル (Carlos the Jackal)。1949年10月12日、ベネズエラのカラカスで左翼系マルクス主義の弁護士家庭に3人兄弟の長男として生まれた。1959年にベネズエラ共産党に参加し、1966年夏にはキューバで軍事訓練を受けた。1966年末に両親の離婚に伴い、母親・弟と共に英国ロンドンに移住した。そこで Stafford House Tutorial College に入学したが、1970年に放校となった。(この期間、モスクワの Patrice Lumumba 大学で共産主義を学んだとも言われている) その後、ヨルダンのアンマンにある PFLP の軍事訓練基地で軍事訓練を受けた。(この時期 RAF のメンバーも PFLP の軍事訓練基地で訓練を受けている) 1970年9月のヨルダン政府による PLO の追放 (「黒い9月」) に伴い、ロンドンに移った。1973年に PFLP の依頼によるイスラエル人暗殺未遂事件を起こしたのを皮切りに、それ以降欧州を中心に数々のテロ活動を行った。1975年12月21日には、石油輸出機構 (OPEC) 総会が開かれていたオーストリア・ウィーンにある OPEC 本部を襲撃し、11ヶ国の石油相を含む約60人を人質にとる事件を

主導した。1976年から1982年にかけては、ユーゴスラビア、イラク、イエメン等で活動したが、主だったテロは行っていない。1982年から83年にかけて、欧州で複数のテロを行っているが、1984年からはテロ活動を止め、シリアに移住した。1993年にシリアから追放され、スーダンに移住した。1994年8月15日にフランス当局により、逮捕され、フランスに送還された。1997年12月23日に終身刑の判決を受けた。

- パレスチナ過激派によって訓練を受けたことにより、RAFは専門的なテロ技術を獲得し、ドイツ国内で本格的な爆弾テロと暗殺を実行するようになった。RAFの主な標的は、西ドイツの政府公共施設、政府関係者、政界関係者、法曹関係者、西ドイツ大企業（特に軍需産業）幹部、西ドイツに駐留する米軍であった。テロ活動には、ピストル、サブ・マシンガン、アサルト・ライフルから手榴弾や対戦車ロケット・ランチャーRPG7等の重火器まで、あらゆる武器が使用された。加えて高度な技術で改良された爆発物も彼らのよって製造、使用された。
- 1972年に、アンドレアス・バーダーとウルリケ・マインホフが相次いで逮捕されたことにより、RAFは内部分裂が進み、弱体化した。しかしながら、バーダー、マインホフ、エンスリン(Gudrun Ensslin)、ラスペ(Jan-Carl Raspe)のRAF幹部4人に対する裁判が1975年5月から始まったことから、これら被告を奪還する活動が盛んとなり、RAFも勢力を盛り返した。(RAFの組織建て直しにカルロスが関与したとも言われている)1977年4月28日に被告3人(マインホフは1976年5月9日に死亡した)に対し、終身刑の判決がなされ、裁判は終了した。この判決後の1977年7月末から10月にかけて、バーダー等のRAF幹部奪還のためのテロ活動が激化し、下記のようなテロ事件がドイツ国内で発生した。(この期間はドイツ現代史で「ドイツの秋」と呼ばれている)
 - 1977年7月30日：ドレスナー銀行頭取誘拐未遂・殺人事件
 - 1977年9月5日：西ドイツ経営者協会会長誘拐・殺害事件(10月18日に殺害された)
 - 1977年10月13日：ルフトハンザ航空機ハイジャック事件
- 西ドイツ経営者協会会長誘拐事件及びルフトハンザ航空機ハイジャック事件では、いずれも西ドイツ政府は犯人側の要求を拒否した。ルフトハンザ航空機ハイジャック事件では、1977年10月17日に同機がソマリアのモガディシオ(Mogadishu)に着陸しているところを西ドイツの特殊部隊「GSG-9(連邦国境警備隊第9部隊)」が急襲し、乗員・乗客86人を救出した。翌日(1977年10月18日)、バーダー、エンスリン、ラスペの3服役囚が刑務所の独房で集団自殺を遂げた。(西ドイツ政府は集団自殺としているが、現在でも謎とされている)RAFは10月19日、9月5日に誘拐した西ドイツ経営者協会会長を処刑したと発表した。その後、RAFの新世代の指導者も1982年に逮捕され、その後急速に弱体化した。1985年1月にフランスの無政府主義系極左テロ組織「アクシオン・ダイレクト(AD: Action Directe)」及びベルギーのマルクス・レーニン主義系極左テロ組織「戦闘的共産主義細胞(CCC: Communist Combatant Cells)」と協力関係を結び、活動を再開したが、1990年代を通じ、数件のテロについて犯行声明を発しているに過ぎない。(真偽は不明だが、RAFは1992年4月にテロ休止宣言を行っている)1998年4月20日、RAFはロイター通信に対し解散声明をファックスしたが、その後同組織の活動は報告されていないことから、現在、RAF自体のテロ遂行能力はほとんどないと言える。
- もう一つの過激な左翼運動は、アウトノーメン(自律主義: Autonomien)の活動である。自律主義(Autonomism)は、1960年代にイタリアで生まれた概念である。特徴としては、マルクス主義から無政府主義までの幅広い概念を兼ね備えている点である。西ドイツでも1970年代を通じ、極左主義と結びつき、過激な活動が繰り返された。例えば、1981年及び1986年の原子力発電所建設反対運動、1976年から1986年にかけてのフランクフルト空港滑走路建設反対運動では、過激な抗議活動が繰り返された。アウトノーメ(自律主義者: Autonome)の抗議活動は、黒尽くめの格好でスキーマスク・ヘルメットをかぶり、警察に対し、バリケードを設置し、石・火炎瓶を投げつけることが一般的である。1989年のデモに関する法律改正により、デモにおいてヘルメットを被ったり、顔を隠す行為は違法とされたことから、活動は下火となっている。しかしながら、現在においては、ネオナチズム(Neo-Nazism)等の極右勢力が活動を活発化させていることへの対抗上、アウトノーメの活動も続いている状況である。特に、極右勢力の行進に対する抗議活動や例年5月1日のメーデーでは、放火、傷害、道路交通や鉄道交通の侵害、投石等を伴う暴力的なデモ等を行っている。

極右系テロ組織によるテロ

□ 極右勢力の活動は、冷戦終結後の 1990 年代初頭から拡大及び過激化している。特に、ネオナチ (Neo-Nazi)、スキンヘッド (Skin Head) と呼ばれる極右勢力による外国人襲撃事件が頻発した。(例えば 1993 年には、ドイツに居住するトルコ人等の外国人を標的とした約 2,200 件の暴力事件が発生) その後、1990 年代半ばには、沈静化する兆候も見られたが、1998 年頃より、再び増加に転じている。2000 年には、ネオナチ・スキンヘッド等による外国人暴行事件は約 3,600 件、また、ドイツ国内のユダヤ人に対する暴行事件も約 1,400 件に達している。ネオナチの勢力は、約 1 万人前後と見られているが、元来ほとんどが若者を中心とした不良グループの集まりであり、組織とは呼べないものがほとんどであった。しかしながら、2000 年 7 月 27 日に発生したデュッセルドルフ駅爆破事件 (同駅近くで爆発があり、旧ソ連からのユダヤ人移民 9 人が負傷) 等、最近のテロ行為には組織的な側面も伺われることから、非合法政治組織「自由ドイツ労働者党 (FAP : Freiheitliche Deutsche Arbeiter Partei)」、「国民戦線 (NF : National Front)」との関係も指摘されている。

クルド系テロ組織等の海外テロ組織によるテロ

□ ドイツ国内で最も活発な活動している海外テロ組織は、クルド労働者党 (PKK : Kurdistan Workers' Party*) であると言える。PKK の活動の中心は、トルコ国内であるが、1993 年以降、ドイツでの活動を活発化させている。特に 1993 年から 96 年にかけては、ドイツ国内にあるトルコ系銀行・航空会社・レストランやトルコ領事館等に対し、襲撃・占拠・放火等のテロを行っている。1999 年に PKK の指導者オジャラン (Abdullah Ocalan) 氏が逮捕され、同組織も大幅に弱体化しているとも言われているが、ドイツ国内を含め、欧州全域に数多くのクルド系住民が居住していることから、PKK に協力するクルド系住民も多く、予断を許さない状況である。

注 : * 1974 年にトルコの反政府クルド人組織を統合する形で設立された。指導者は Abdullah Ocalan。(1999 年 2 月にトルコに移送・逮捕され、現在収監中) マルクス・レーニン主義を基にしたクルド地方の分離独立・革命・分離独立を目的としている。初期における攻撃対象はトルコ国内におけるトルコ政府治安当局であったが、その後欧州全域でトルコ政府、トルコ人を対象とするようになる。特に 1993 年から 96 年にかけて、トルコ人外交官、トルコ商用施設に対する一連のテロが欧州全域で行われた。また、トルコの観光産業に打撃を与えるため、観光地、ホテルに対する爆弾攻撃や外国人観光客の誘拐を行っている。勢力は約 4,000~5,000 人と推定されている。また、欧州全域に数千人規模の支援者がいるとも言われている。

Al-Qaida 等の国際テロ組織

□ ドイツには現在、約 735 万人の外国人が居住 (登録数) しており、全人口の 8.9% を占めている。そのうち、最も多いのがトルコ人で、約 188 万人 (全人口の 2.3%) に達している。(図表 6 参照) 外国人の比率が多い地域は、フランクフルト (外国人比率 28.7%)、シュトゥットガルト (外国人比率 24%)、ミュンヘン (外国人比率 20.9%)、マンハイム (外国人比率 20.1%) 等の旧西ドイツ地域の大都市であるが、トルコ人の比率もこれら地域では際立って高くなっている。

【図表 6 : 国別ドイツ在住外国人数 (2003 年 12 月末現在)】

国名	人口 (単位 : 1,000 人)	
		全人口に 占める割合
トルコ	1,877.7	(2.28%)
イタリア	601.3	(0.73%)

国名	人口 (単位：1,000 人)	
		全人口に 占める割合
セルビア・モンテネグロ	568.2	(0.69%)
ギリシャ	354.6	(0.43%)
ポーランド	326.9	(0.40%)
クロアチア	236.9	(0.29%)
オーストリア	189.5	(0.23%)
ボスニア・ヘルツェゴビナ	167.1	(0.20%)
米国	112.9	(0.14%)
マケドニア	61.0	(0.07%)
スロベニア	21.8	(0.03%)
その他	2,830.4	(3.43%)
合計	7,348.3	(8.90%)

【出典：ドイツ連邦統計庁】

- ドイツ国内で居住するトルコ人の比率が高いことから、ドイツ国内のイスラム教徒の比率も高くなっている。現在、41ヶ国からの約320万人のイスラム教徒がドイツ国内に居住していると言われており、総人口に占める割合は3.9%に達している。特に、旧西ドイツ地域の大都市に集中していることが特徴として挙げられる。イスラム教徒が多いことに伴い、イスラム教団体も数多く創設されている。ドイツ最大のイスラム教組織としては公益法人である「宗教団体トルコイスラム連合 (DITIB : Diyanet İşleri Türk İslam Birliği)」がある。DITIBの1999年半ばの発表によれば、ドイツ全土で776の協会が同連合に加盟している。また、既存のイスラム教団体が合併したものとしては1986年の「ドイツ・イスラム評議会 (Islamic Council for Germany)」と1994年の「ドイツ・イスラム中央評議会 (Central Moslem Council of Germany)」がある。中央評議会の方は加盟団体数19ではあるが、出身国や教派も多彩で、幅広いイスラム教徒の団体となっているのに対し、イスラム評議会は加盟団体数30以上を擁しながら、その中でイスラム過激派と目される団体「ミリ・ゲリュス (MiliGoerues)」が支配的地位にあるのが特徴として挙げられる。ミリ・ゲリュスの思想の中心は、イスラム教徒のドイツ社会への同化反対であり、イスラム原理主義的な傾向を有している。そのため、イスラム原理主義に傾倒しているイスラム教徒の比率は、他の欧州に比べ、高いと言える。また、ドイツには、中東等からのアラブ系留学生が数多く居住していることから、若い世代を中心にイスラム原理主義に傾倒する傾向が見られる。
- 2001年9月11日に発生した米国同時多発テロ事件の実行犯(19人)のうち、主犯格のMohamed Atta al-Sayed (国籍：エジプト)、Marwan Yousef al-Shehhi (国籍：UAE)、Ziad Samir Jarrah (国籍：レバノン)の3人は、1998年11月1日にハンブルグのMarienstrasseのアパートで「ハンブルグ細胞 (Hamburg Cell)」を創設し、アラブ系留学生等、ドイツに居住する若い世代への過激なイスラム原理主義の浸透を図り、同時に大規模なテロ実行のために準備・計画を行ったことが明らかとなっている。
- このことから、ドイツ国内にはイスラム原理主義に傾倒するイスラム教徒が比較的多いことが分かる。そのため、今後ドイツ国内でイスラム原理主義テロ組織による大規模テロが発生する可能性は、低いとは言えない。

その他の過激な組織

- その他の過激な組織としては、過激な環境保護・動物愛護団体が挙げられる。ドイツは、「緑の党 (Bündnis 90/Die Grünen : Alliance '90/The Greens)」が 1988 年から 2005 年 9 月まで政権与党に参加していたことから分かる通り、環境保護に対し積極的である。(緑の党は 2005 年 9 月の総選挙でも 8.1% の得票率で 51 議席を獲得したが、連立相手の社会民主党 (SPD) の敗北により政権与党の座を失った) そのため、過激な環境保護団体が、他の欧州と比較し、活動し易い状況である。
- 特に、英国を本拠地とする動物実験に反対する「ストップ・ハンティンドン・アニマル・クルエルティ (SHAC : Stop Huntingdon Animal Cruelty*)」は、英国国内での活動が裁判所等からの命令等により、制限されている。そのため、現在、ドイツ・アイルランド・イタリア・ポルトガル・スウェーデン・スイス等の欧州に支部を設け、それらの国で活発な活動を行っている。(また、SHAC は米国・オーストラリア・ニュージーランド等、欧州以外でも活発な活動を行っている) なお、SHAC の標的の中には、今次大会の Official Partners (図表 5 参照) の一つであるマクドナルドが含まれていることに留意する必要がある。また、世界最大規模の薬剤開発サービス会社である Covance 社の動物実験に反対する「Die Tierbefreier e.V. (Covance Campaign)」も SHAC 同様、ドイツ国内で活発な活動を行っている。

注：* 1999 年設立。活動メンバーは 40 人程度だが、英国に支援者が 5,000 人程度いる。世界最大の薬物試験 (動物実験) 会社「ハンティンドン・ライフ・サイエンス (HLS : Huntingdon Life Sciences)」の業務停止が主たる目的である。なお、最終目的は先進国のすべての薬物試験会社を閉鎖させ、世界に動物愛護運動を広めることである。ホームページで活動を詳細に報告するが、対象企業の無知、無防備さを徹底的に嘲笑する文章が大半を占める。活動の手法は、HLS 職員・経営陣に対する暴力事件、放火、取引金融機関への脅迫等にまで至り、その度を越した抗議活動は英国で社会問題とまでなっている。
- これら過激な環境保護・動物愛護団体の手法としては、攻撃対象企業の職員・経営陣に対する暴力及び嫌がらせ (住居周辺等)、放火、取引金融機関への脅迫、職場でのデモ活動、攻撃対象企業への大量の電話・電子メール・ファックス等の送付による業務妨害、個人情報・重要情報の HP 上での公表等、多種多様である。なお、SHAC は、ALF (Animal Liberation Front)・ELF (Environment Liberation Front)・PETA (People For The Ethical Treatment Of Animals) 等、世界的な活動を行っている過激な環境保護・動物愛護団体とも連携していることから、今後ドイツに限らず、全世界的に活動が活発化する可能性が高いと言える。

(第 2 部に続く)

本編は、弊社が契約企業に対し不定期で情報提供している「海外安全レポート」として 2006 年 4 月 18 日作成「サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会を標的としたテロの可能性について」から抜粋したものである。(「海外安全レポート」は弊社の「海外危機管理情報提供サービス」に基づき、不定期に提供しているもので、2005 年の実績で 58 編のレポートを提供した)

(第 92 号 2006 年 5 月発行)

ドイツを標的とした過去のテロ事件

(1946年～：主要なテロのみ)

発生年月日	発生国	概要
1946年1月7日	ドイツ	パッサウでナチスの「狼男」テロリストが米国人文官宅を全焼させ、3人が死亡。
1968年10月26日	西ドイツ	ミュンヘンのアパートで反共産主義のクロアチア人指導者3人が殺害された。
1972年5月11日	西ドイツ	フランクフルトにある米軍基地を RAF が爆破し、1人が死亡、13人が負傷。
1972年5月11日	西ドイツ	アウグスブルグの警察署とミュンヘンにある司法施設が爆破され、5人が負傷。
1972年5月11日	西ドイツ	カールスルーヘで、RAF が連邦判事の乗った車を爆破し、判事が死亡、同乗していた妻が負傷。
1972年5月24日	西ドイツ	ハイデルベルグの部軍基地の外側で、RAF が爆弾を爆破させ、3人が死亡、5人が負傷。
1972年9月5日	西ドイツ	ミュンヘン・オリンピックで、パレスチナ解放機構の7人が、選手村のイスラエル宿舎を襲撃した。「黒い9月」を名乗るテロリストは、イスラエルのコーチと選手2人を射殺し、イスラエル選手団9人を人質にとって立てこもり、イスラエル政府に獄中のゲリラ200人の釈放を要求した。イスラエル政府は、ゲリラの釈放要求を拒否。脱出のために向かった空軍基地において、西ドイツ警察による一斉射撃が開始され、ゲリラ4人が射殺された。後に、3人が逮捕された。ゲリラの投げた手榴弾で、選手たちの乗ったヘリコプターは爆破され、人質は全員死亡した。
1975年4月24日	スウェーデン	ストックホルムにある西ドイツ大使館を RAF が占拠し、大使と大使館員の計2人を殺害、RAF側も2人が死亡。
1976年6月1日	西ドイツ	フランクフルトにある米軍基地を RAF が爆破し、16人が負傷。
1976年6月27日	ウガンダ	パリ行きのエールフランス139便がテルアビブを離陸後、PFLPのゲリラとRAFの流れを汲む旧西ドイツのゲリラに乗っ取られ、アフリカ大陸を南下し、ウガンダのエンテベ空港に強制着陸させられた。旅客機には乗員・乗客合わせて256人が乗っており、ハイジャック犯は、イスラエル国籍者とユダヤ人だけを人質として残し、他の乗客全員を釈放した。ハイジャック犯7人は重武装しており、服役中の40人のテロリストの釈放を要求したが、イスラエル政府はこれを拒否した。7月3日、イスラエル政府は人質救出作戦の決行を決め、複数の「サエレット」奇襲部隊をイスラエルから4,000km離れたウガンダに派兵した。多数の兵士、武器、野戦病院設備を満載した3機の大型輸送機がエンテベ空港に着陸し、警備にあっていたウガンダ兵を射殺しながら旧乗客ターミナルに突入し、数分のうちにテロリスト7人を射殺した。人質のうち1人が銃撃戦の流れ弾により負傷し病院に収容され、のちにウガンダ兵によって殺害されたが、他の人質は無傷で解放された。「サエレット」奇襲部隊では、管制塔を警備していたウガンダ兵に撃たれて1人が死亡した。ウガンダ側は兵士45人が死亡した。
1977年4月7日	西ドイツ	カールスルーヘで、RAF が連邦検察庁長官が乗った車を襲撃し、長官・運転手及び通行人の計3人が死亡。
1977年7月30日	西ドイツ	タイナスでドレスナー銀行頭取の自宅を RAF が誘拐目的で進入したが、抵抗されたため、同頭取を殺害。
1977年9月5日	西ドイツ	西ドイツ経営者協会の会長が、RAFにより誘拐され、10月18日に殺害された。

発生年月日	発生国	概要
1977年10月13日	フランス	ルフトハンザ航空の旅客機が南フランス上空でRAFを名乗る4人にハイジャックされるが、ソマリアのモガディシオに着陸したところで西独の対ゲリラ特別部隊28人が機内に突入、犯人全員を射殺、乗員・乗客86人を救出した。
1979年6月25日	ベルギー	RAFがブリッセルでヘイグNATO総司令官の暗殺の目的で橋を爆破したが、同総司令官は難を逃れた。
1979年8月27日	西ドイツ	フランクフルト中心部にあるトルコ航空事務所で爆弾が爆発し、1人が負傷。アルメニア系テロ組織が犯行声明。
1981年8月31日	西ドイツ	RAFがラムスタイン米軍基地内で爆弾を爆発させた。爆発は、午前7時に米軍空軍本部建物の駐車場で発生し、通勤してきた人々が被害にあった。この本部建物はNATOの空軍基地本部としても使用されていた。
1982年5月11日	西ドイツ	ラムスタインにある米軍空軍基地で爆発があり、20人が負傷。RAFが犯行声明。
1983年8月8日	西ドイツ	ハーンにある米軍空軍の士官クラブで数発の爆弾が爆発したが、負傷者はいなかった。
1985年11月24日	西ドイツ	フランクフルトにあるスーパーマーケットで爆発があり、37人が負傷。
1986年4月5日	西ドイツ	5日午前1時50分頃、西ベルリン市フリーデナウ地区のディスコ・ラ・ベル (La belle) で爆発物が爆発し、2人が即死、もう1人が、この時の怪我がもとで、後に死亡、229人が負傷した。負傷者のうち44人は、米国人で、そのうち35人が米軍関係者だった。事件当時、駐東独リビア外交官だったムサバ・アブドゥルガセム・エタ (Musbah Abulgasem Eter) が、マルタ島の西ドイツ大使館に現れ、リビア関与の証拠を提出した。
1986年7月9日	西ドイツ	ミュンヘン近郊でシーメンスの幹部と運転手がRAFにより射殺された。
1989年11月30日	西ドイツ	RAFの後継組織 (AIZ) が、ドイツ銀行頭取アルフレッド・ハーホーゼン (Alfred Herrhausen) を暗殺。
1991年2月13日	ドイツ	RAFがボンにある米国大使館に迫撃砲のようなものを打ち込んだが、被害は軽微であった。
1991年4月1日	ドイツ	デュッセルドルフで信託公社総裁が自宅にいたところをAIZが襲撃し、同総裁が殺害された。
1991年11月10日	ドイツ	ヘッセのNATOの石油パイプライン近くで、RAFが仕掛けたと思われる爆弾が見つかったが、処理された。
1993年3月27日	ドイツ	バイタースタットの刑務所建設現場をAIZが爆破した。
1993年6月24日	ドイツ	ミュンヘンにあるトルコ系銀行・トルコ系航空会社等の事務所6ヶ所がPKKの武装グループに襲撃された。
1993年6月24日	ドイツ	ミュンヘンにあるトルコ領事館がPKKの武装グループに占拠された。
1994年11月8日	ユーゴスラビア	8日午前、ドイツのデュッセルドルフからアテネに向かったオリンピック航空機がユーゴスラビアのベオグラード上空でハイジャックされた。同機には乗客69人と乗員8人が乗っていたが、ギリシャ北部に緊急着陸して解放された。犯人はギリシャ人の青年であった。
1995年12月23日	ドイツ	デュッセルドルフのペルー領事館が爆破され、建物に大きな被害があった。AIZが犯行声明。
1996年7月24日	ドイツ	シュツットガルト空港にあるトルコ航空の事務所がPKKの武装グループに占拠された。
1996年11月24日	ドイツ	ブレーメンにあるトルコ系のスーパーマーケットで爆発があり、10人が負傷。
1997年3月21日	ドイツ	バッドビベルにあるトルコ系レストランの外で爆弾が爆発し、1人が負傷。
2000年7月27日	ドイツ	デュッセルドルフの駅近くで爆発があり、旧ソ連からのユダヤ人移民9人が負傷。ネオナチの犯行との見方が有力。
2000年10月2日	ドイツ	デュッセルドルフのユダヤ教会 (シナゴグ) に2人のネオナチの少年が火炎瓶を投げ込んだが、通行人がすぐに火を消したため、けが人はなかった。

発生年月日	発生国	概要
2001年4月16日	ドイツ	デュッセルドルフのトルコ領事館の入り口で爆発があり、イスラム大東方攻撃隊・戦線 (IBDA/C) が犯行声明。
2002年1月30日	ドイツ	Al-Qaidaのドイツ国内のメンバーとみられる容疑者の自宅から、在ベルリン日本大使館の精巧な設計図が発見された。
2002年4月11日	チュニジア	チュニジア・ジェルバ島のシナゴグ(ユダヤ教の会堂)近くで天然ガス輸送トラックが爆発し、ドイツ人観光客ら17人が死亡、21人が負傷。
2002年9月6日	ドイツ	同国西部バーデン・ビュルテンベルク州政府のショイブレ内相は、米中枢同時テロから丸1年の11日に同州内にある米欧州軍陸軍司令部等へのテロ攻撃を計画していたとみられる男女2人の容疑者を逮捕、大量の爆発物を押収したと発表。
2003年1月9日	ベネズエラ	豪、独、加の在ベネズエラ大使館に"Patriotic Committee for Venezuela"の構成員と名乗る男から爆弾を仕掛けたとの脅迫電話があった。カナダ大使館だけが避難したが、爆弾は発見されなかった。
2003年4月25日	ドイツ	ブレーメンでドイツに帰化したレバノン出身の少年(17)が短銃で武装し、昨年パキスタンで逮捕され、米国に身柄を引き渡されたラムジ・ビンアルシブ容疑者らアルカイダ(al-Qa'ida)のメンバー4人の釈放を求めて路線バスを乗取った。警察の特殊部隊が車内に突入、犯人を逮捕。
2003年5月7日	レバノン	トリポリのドイツ人宣教師宅前に小包が置かれているのに隣人のヨルダン人が気づき、動かそうとしたところ爆発、ヨルダン人は死亡。ドイツ人宅の子供は軽傷を負い、家の窓が割れ付近に駐車中の車にも被害が出た。
2003年6月6日	ドイツ	6日午後7時40分頃、ドレスデンの中央駅のフランクフルト行き等の長距離電車の入るホームの端で、駅員が不審なかばんを発見。通報を受けた警察当局と爆発物の専門家が、その爆発物の入った鞆を処理した。
2003年6月7日	アフガニスタン	7日朝、カブールで国際治安支援部隊(ISAF)のバスが爆破され、地元警察等によると、乗っていたドイツ軍部隊兵士3人を含む計6人が死亡、約30人が負傷。
2003年12月25日	イラク	バグダッドのシェラトンホテルやCPA本部の敷地、民間アパート、ドイツ、トルコ、イランの3大使館等少なくとも6カ所以上のソフトターゲットに向けてミサイルが撃ち込まれる同時多発攻撃があった。
2003年12月29日	ドイツ	12月29日朝、欧州中央銀行フランクフルト本部トリシェ総裁宛の不審な郵便物が発見された。書物程度の大きさの小包爆弾とみられる。郵便職員が通常の検査業務中に発見した。
2004年1月28日	アフガニスタン	カブール市内のドイツ軍基地近くで、爆発物を積んだタクシーが爆発し、外国人5人が負傷。
2004年3月16日	イラク	バグダッド南ムサヤブ(Mussayab)で水道事業に関わるドイツ人2人とイラク人警官、運転手各1人の計4人が襲撃され、いずれも死亡。
2004年3月20日	ドイツ	バッドオールドスローにある軍事関連会社ハコ社の施設が放火された。左翼勢力が犯行声明。
2004年3月26日	ドイツ	3月26日午後5時頃、ドイツ警察は爆破予告電話を受けたとして、主要な鉄道路線が通るドイツ西部デュイスブルク駅を閉鎖した。
2004年6月9日	ドイツ	6月9日午後4時頃、ケルン市ミュールハイム地区で爆発事件が発生し、少なくとも22人が負傷。爆弾の中には、殺傷能力を増加させるために釘が多数入っていた。爆弾が爆発した地区はトルコ人の多く住む地域であり、4階建ての住居兼店舗1棟が破壊され、周辺の民家にも被害が及んだ。
2004年6月16日	アフガニスタン	アフガニスタン・クンドゥースでNATO治安維持軍に参加しているドイツ軍のSUV車が通りかかったところ道路脇で爆弾が爆発、アフガン人4人が死亡。
2004年6月29日	ドイツ	ミュンヘンからトルコ・イスタンブールに向かっていたトルコのフリーバード航空の旅客機内で29日夜、男が爆弾を持っていると乗員を脅迫、機長は同機をミュンヘンの空港に引き返させた。男は着陸後、特殊部隊に逮捕された。

発生年月日	発生国	概要
2004年8月22日	イラク	モスルでドイツ企業の車が武装勢力に銃撃され、インドネシア人1人とイラク人2人が死亡、フィリピン人1人が負傷。事務所に向かう途中に待ち伏せ攻撃を受けたらしい。インドネシア人とフィリピン人は独通信会社の技術者で、イラク人2人は運転手と警備員。
2004年8月30日	ドイツ	南部レーゲンの町で地元行政当局宛ての手紙が爆発したが、負傷者はなかった。この4ヶ月ババリア地方で政治家宛てに手紙爆弾が送られる事件が続いている。犯人は1人と見られているが、動機は不明。
2004年10月1日	ドイツ	ベルリン発ロンドン行き英国航空機(乗客118人)が、偽の爆破予告を受けアムステルダムスキポール空港に緊急着陸した。離陸直前にドイツのテレビ局ARDに、フライトナンバーと目的地をあげ爆弾を仕掛けたとの電話がかかった。ARDはドイツ警察に通報。オランダ空軍のF16戦闘機のエスコートを受け、英国航空機は現地時間午後1時56分、スキポール空港に着陸した。数時間の捜索後、爆発物はないことが判明した。
2004年10月5日	キプロス	フランクフルトからイスラエルのテルアビブに向かっていたルフトハンザ航空機(乗員乗客347人)が離陸後、機内に爆発物を仕掛けたとの脅迫電話を受けたため、キプロスのラルナカ空港に緊急着陸した。キプロスの治安当局等が機内を捜索したが、爆発物は発見されなかった。
2005年1月9日	フランス	フランス南部ニースのコートダジュール国際空港にナチスがアウシュビッツ収容所で使用した毒ガスを9日にまくと予告する手紙が届き、防毒マスク姿の化学テロ対策班等が警戒に当たった。手紙の差出人はドイツの「反グローバリズム欧州戦線」を名乗る団体。
2005年6月15日	ナイジェリア	6月15日朝、ナイジェリアのニジェール川デルタ地帯で、ドイツ企業に勤務するドイツ人2人とナイジェリア人4人の計6人が、武装グループに拉致された。
2005年10月4日	マレーシア	マレーシアの在クアラルンプール・ドイツ大使館に不審な液体の入った郵便物が届いた。
2005年11月25日	イラク	イラクで人道支援をしているドイツ人女性とその運転手が武装組織に拉致された。
2005年12月28日	イエメン	イエメン中部シャブワ州で、ドイツ人旅行者家族5人が武装グループに誘拐された。
2006年1月24日	イラク	1月24日午前8時半頃、イラクのバイジの工業団地にある洗剤製造工場のすぐ外で、車で出勤してきたドイツ人技術者2人が、イラク軍の制服を着た6人組に拉致された。運転手は無事だった。
2006年2月22日	アフガニスタン	アフガニスタン北部クンドゥースで、国際治安支援部隊(ISAF)の車両近くでオートバイが爆発し、オートバイの運転手が死亡、ドイツ人兵士1人を含む13人が負傷。